Frequency of examinations for cancer among patient

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 雄一 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001951

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1782 号

Status of reviewing for cancer among patients with lifestyle-related diseases

（生活習慣病を有する外来通院中の患者における、悪性疾患を評価するための検査の実施状況とその関連要因の検討）

高橋　雄一（たかはし　ゆういち）

博士（医学）

論文内容の要旨

生活習慣病の治療として外来通院している患者を対象とした、悪性疾患の有無を評価する検査の施行率を調査した報告は殆どない。そのため、これらの外来患者の、悪性疾患の評価実施の状況は明らかでない。本研究は、外来通院中の生活習慣病患者における、悪性疾患の有無を評価するための検査の施行率とその関連要因を明らかにする事を目的とした。

2011 年 1 月 1 日から 2013 年 12 月 31 日の間に、順天堂大学医学部附属順天堂医院の糖尿病・内分泌内科、循環器内科、総合診療科を受診した生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症、および高尿酸血症）を有する外来患者を対象とした。保険適応内の悪性疾患の有無を評価する検査は、肺は胸部 X 線とコンピュータ断層撮影（胸部を含めたＣＴ）、胃は上部消化管 X 線造影（GI）と上部消化管内視鏡検査、大腸は便潜血検査と下部消化管内視鏡検査と定義した。対象を年齢と生活習慣病の数でそれぞれ層別化し、検査の施行率との関係について、コクラン・アーミテージ傾向検定を用いて評価した。次に、多変量ロジスティック回帰分析を用いて検査施行の予測因子を推測した。

27,719 人の外来患者（平均年齢:63 歳、男性:60%）を調査した。これら対象者の中で 78%は糖尿病、55%は脂質異常症、64%は高血圧症、17%は高尿酸血症/痛風を合併していた。検査施行率については胸部 X 線は 54%、コンピュータ断層撮影（胸部を含めたＣＴ）は 11%であった。上部消化管 X 線造影（GI）は 0.1%、上部消化管内視鏡検査は 4%であった。便潜血検査は 7%および下部消化管内視鏡検査は 2%であった。そして、年齢や生活習慣病数は、検査施行に有意に関連していた。

本研究結果から悪性疾患に対する検査率は低い可能性が示唆された。また、対象患者の年齢および生活習慣病数は、悪性疾患の検査率と有意に関連していた。悪性疾患のリスクが高い生活習慣病患者においてはより慎重なアセスメントを行い、評価が必要な患者に対しては適切な対応を行う事が重要と考えられた。